

授業科目名	看護学総合実習Ⅱ	担当教員	看護学科 全教員 科目責任者：伊藤 智子		
開講年次及び学期	4年後期	必修・選択の別	必修		
開講形態	実習	時間数	45	単位数	1
授業の目的（概要）					
既習の看護学実習をふまえ、学生個々がさらに深めたい学習課題を明確にし、主体的に実習を計画および実習することにより、看護学実習における体験や学びを統合し、自己の看護観を深めることができる。					
学修成果（到達目標）					
1.自己目標を明確にし、実習計画を立案することができる。 1)既習の看護学実習を振り返り、自己の学習課題を明確にすることができる。 2)自己の学習課題に対する実習目標を設定し、実現可能で具体的な実習計画を立案することができる。 3)実習施設との必要な連絡や調整を主体的に行うことができる。					
2.実習計画に基づいて看護実践を行い、自己の実践について評価ができる。 1)実施、援助の効果を評価することができる。 2)ケアチームの一員としての自覚をもち、チームメンバーと協働しながら看護を実践することができる。 3.自己の看護観を深めることができる。					
キーワード					
授業の進め方					
看護学総合実習Ⅱは、4年間の看護学の最後の学習として学生が主体的に行う実習である					
成績評価の方法（合否基準）					
実習目標の達成度を学生の自己評価、実習指導者、教員による評価をもとに総合的に判断し評価する。					
教科書・参考書・視聴覚・その他の教材					
文献等を用いて各自が主体的に学習する。					
オフィスアワー					
モデル・コア・カリキュラムとの関連					
F-1 臨地実習における学修 F-1-1) 臨地実習における学修 F-1-2) 臨地実習における学修の在り方 F-2 ケアへの参画 F-2-1) 看護過程に基づくケアの実践 F-2-2) 安全なケア環境の整備 F-2-3) チームの一員としてのケア参画					
準備学修に必要な学修の時間					
各講義の中で指示します。					

看護学総合実習Ⅱ実習内容

<実習期間>

- 1) 実習は4年次後期の5日間とし、12月末までに終了する。
- 2) 5日間のうち、1日は実習場所との調整や事前学習、4日間は実習場所での実習とする。ただし、実習日は連続でも断続でも良い。
- 3) 実習施設との必要な連絡や調整を主体的に行うことができる。

<実習場所>

- 1) 島根大学医学部附属病院
- 2) 介護老人保健施設
- 3) 訪問看護ステーション
- 4) 島根大学教育学部附属学校
- 5) 海星病院
- 6) あさひクリニック(デイケアひだまり)

<実習内容>

- 1) 実習内容は、学生が自ら計画する。
 - (1) 学生は、既習の看護学実習の学びや課題を振り返り、希望調査票を記入し学務課に提出する。
希望調査票に記述することによって、看護学総合実習Ⅱにおける学習課題と目標を明確にする。
 - (2) 実習目標を達成するために実現可能な実習計画を立案する。
- 2) 実習を行う場所および日程については、学生が主体的に連絡・調整を行い決定する。
- 3) 実習の際に、対象者に対して文書を用いたインフォームドコンセントが必要な場合には、説明書および同意書を作成し、文書と口頭で説明し、同意を得る。
- 4) 立案した実習計画に基づいて実習を実施し、実施援助の結果について評価する。
- 5) レポート作成、領域ごとに行うまとめの会等を活用し、自己の看護観を深める。

<実習記録>

- 1) 実習計画は自己の学習課題に対する実習目標と実現可能で具体的な計画を記述する。

用紙は参考資料1を用いる。
- 2) 実習日誌はその日の目標、実習計画に対する自己の実践結果について振り返り記述する。

用紙は参考資料2を用いる。

<レポート>

すべての看護学実習を統合し、自己の看護観について考察するためにレポートを作成する。

備 考

- ・ オリエンテーションに参加すること
第1回 概要の説明、実習手引きの配布 (2月)
第2回 実習内容、実習時期、実習先の希望 (4月)